

研究の概要

学校教育目標

21世紀をかしこく・やさしく・たくましく生きる子どもの育成

よく考える子

ことば
確かな学力

心豊かな子

感動体験
豊かな人間性

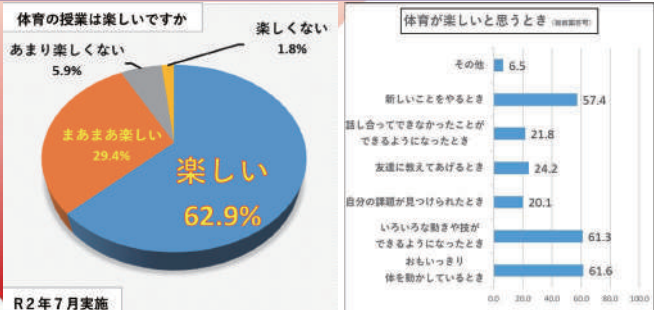
健康な子

元気
健康・体力

生きる力を培う、活力ある児童の育成 ～自ら考え、協働し、課題解決を目指す児童の育成～

本校児童の実態

- 「体育の授業は楽しいですか」の質問の結果より、全体的に運動に対して肯定的に捉えている児童、家庭が多いと考えられる。
- 「体育の授業ではどんな時に楽しいと思うか」の質問に対しては、「おもいきり体を動かしている時」や「技や動きができるようになった時」を選んだ児童の割合が多かった。
- △「友達と教え合う時」や「自分の課題が見つけた時」を選んだ児童の割合は低く、友達と関わる中で課題を解決しようとする意識が低いことが考えられる。
- △日々の授業の中では、運動を苦手としている児童が、自分の伸びを感じることができていない姿も見られる。



研究主題設定の理由

本校児童の実態から、自分の課題を見つけて、解決することができる力をつけていきたいと考える。運動が「できる」楽しさだけではなく、「どうすればできるようになるか」を考える楽しさを味わえるようにしていきたい。そのために、自力で考える場に限らず、協働的な学びの場を設け、自分の良さに気付いたり、高め合うよさを味わったりして高めていってほしいと考える。よって、上のように研究主題を設定した。

目指す児童像

自ら進んで学習することができる子

協力することができる子

課題を解決することができる子

仮説1

児童にとって必要感のある学びとなるよう学習過程を工夫すれば、自ら課題をもち進んで学習に取り組むことができるであろう。

仮説2

児童が自力解決や協働しながら課題解決できるよう指導法を工夫すれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

研究の組織

研修推進委員会

校長・教頭
研修主任
研修推進委員

研修全体会

専門部会

授業研究部
教科外活動部
調査統計部

専門部会の取組

授業研究部

目指す児童像

自ら進んで学習することができる子

協力することができる子

課題を解決することができる子

仮説1

児童にとって必要感のある学びとなるよう学習過程を工夫すれば、自ら課題をもち進んで学習に取り組むことができるであろう。

学習過程の工夫

児童が主体的に課題解決に取り組むことができるよう「習得-課題発見-課題解決-振り返り」で単元を構成した。児童の気付きや考えを生かして課題設定や単元の構成をつくることで、児童が学習に必要感を感じ、より主体的に学習に取り組む児童の育成を目指した。



小中一貫の視点

9年間を見通した「指導計画」の作成と実践

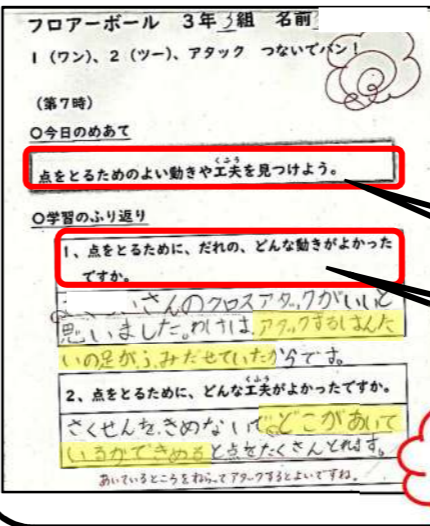
小学校・中学校で連携し9年間を見通して授業づくりや授業改善を行っている。相互の授業参観も積極的に行っている。参観の際には、授業改善チェックシートを活用している。なお、小中一貫の8つのポイントから「学習課題の把握」「振り返りの活動」に重点を置き、作成している。



質問形式の学習カードの活用

作成のポイント

児童① 3年生「フロアボール」



本時のねらいにそった振り返りを記入することができるよう、意図的な発問を併記したカードを作成した。

本時のねらい

意図的な発問

ねらいに沿った振り返り

結果と考察

- 児童①は3年生の学習カードの記述である。3年生の発達段階でも、動きのポイントを自分の言葉で詳しく書くことができる。
- 児童②③は、2名の同一児童の2年間の学習カードの記述を比較したものである。前学年よりも、オフザボールの動きに関して具体的に記述することができるようになってきている。
- 質問形式の学習カードを使用することで、ねらいにそった振り返りができるようになった。低学年、中学年の児童でも学習の振り返りを記述することができ、これは質問形式の学習カードの成果であると考えられる。また、振り返りの活動が充実していることで、児童が授業での学びや自己の伸びを実感すると同時に、次時へ向けての課題を見つけることができ、学習意欲の高まりが感じられた。

仮説2

児童が自力解決や協働しながら課題解決できるよう指導法を工夫すれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

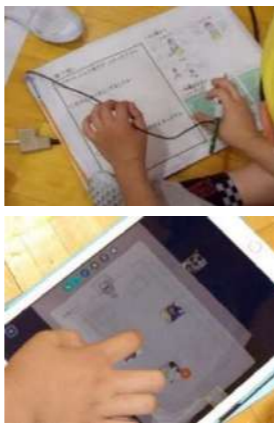
掲示板の提示

単元計画や本時の課題、動きや技のポイントなどを示した掲示板を作成し、児童に提示した。児童の言葉を使って、作成することにより、掲示板に載っている言葉を使いながら教え合いをする様子が見られた。

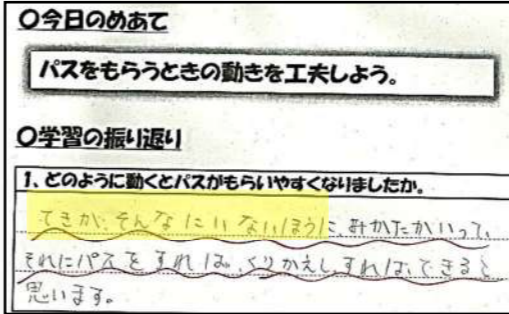


作戦ボードの作成

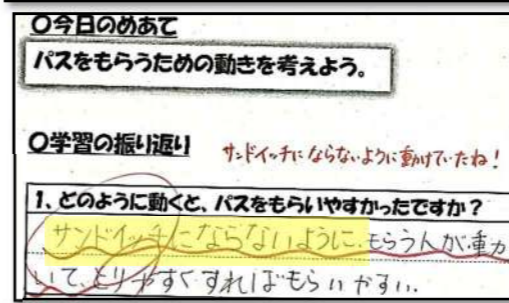
「作戦ボード」としてコートを表したボードやマグネットを活用し、児童が自分の考えをより分かりやすく表現することができるようになった。それにより、課題を解決するためのより効果的な話し合いや教え合いができるようになった。



児童②
令和2年度
3年生
ハンドボール

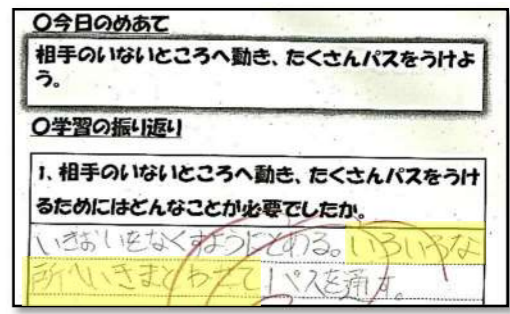


児童②
令和2年度
4年生
リングボール

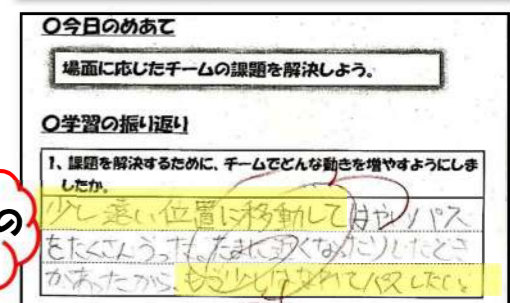


本時の学び

児童③
令和2年度
5年生
サッカー



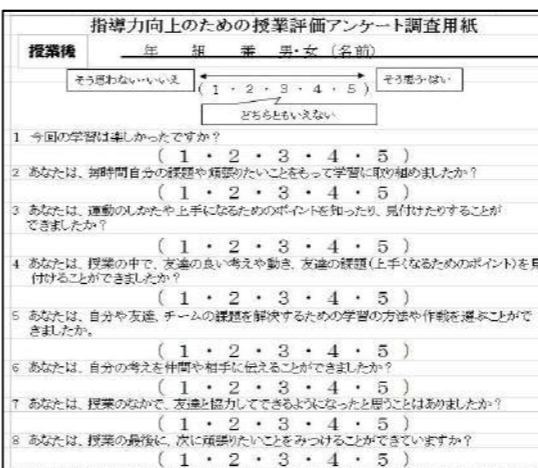
児童③
令和3年度
6年生
バスケットボール



次時への課題

授業評価アンケートの活用

作成のポイント



- 授業内容や授業者の意図によりアンケート項目を選択して活用できる。
- 自由記述欄を作成し、児童の思いを基に自己の指導力を見直すことができる。また、手立ての効果の検証ができる。
- 授業前と授業後に活用することで児童の変容が分かる。

結果と考察

	質問4	質問5	質問6	質問7
令和2年度	4.17	3.85	4.14	4.19
令和3年度	4.48	4.62	4.29	4.68
差	0.32	0.77	0.15	0.49

質問④～⑦が本校の課題である「どうすればできるようになるか」に繋がる部分である。上の表は、令和2年度と令和3年度に研究授業を行った3学級の平均値を比べた結果である。全ての項目で昨年度を超える数値となった。特に質問5「課題を解決するための方法を選ぶことができたか」の数値に伸びが見られたことは大きな成果である。

最大5pt

ICT (タブレット、大型テレビ) の活用

話し合いをする際に積極的にタブレットを使った。仲間の動きを撮影し、よかった点や改善点、作戦などを伝え合い、仲間と協働しながら学習することで、思考を深めた。また、教師が話し合いや教え合いの視点を示すことで、より質の高い学習となった。



チームの課題を発見するために、タブレットで撮影した動画に考えを書き込ませた。作成したデータを学習支援ソフト「ロイロノート」で提出することで、教師がそれぞれのチームの考えを把握することができ、各チームへの助言や評価に生かすことができた。



保健教育の充実

保健の授業は、養護教諭と連携して行っている。養護教諭が入ることにより、課題の必要感の高まりや、より深い知識を得ることに繋がった。また、保健便りや委員会の活動が、生活習慣の見直しの一助となった。さらには、学校栄養士の給食指導により、食生活にも改善が見られた。

